京都産業大学新聞

発行
京都産業大学新聞局
京都市北区上賀茂本山
BOX 703
TEL(701) 2151
内線 2756
発行責任者
新聞局編集部

論壇

生涯学習寸考

理学部教授　井上猛

世は挙げて生涯学習の時代である。それは何も今に始まったのではない。これ迄にも一般社会人の学習は充分にあった。車の運転にしてもワープロの操作にしても相応の学習があったればこそ可能になったのである。ただ最近は世の中の変化が余りにも激しくなって来たのでこれ迄の様な規模や歩調ではとてもでは無いが対応できなくなって来たのである。週休二日制や有給休暇の増加、更には退職後の時間等これらの善用と云うのも一つの社会問題になって来た。

そんな先の事など我々若者には無縁至極等と言う勿れ。世に言う粗大ゴミ、大体こう云う言い方が通用すると云うのが問題であるがそうしたものが一日にして成った等とは思うべきではない。諸君の今日今の過ごし方がそのまま定年後に出た

に過ぎないのであるから。諸君とても遥かな将来を見通して今から学習計画を立てて行かねばならないのである。

生涯学習なる用語は極く最近になって使われ出したものである。文部省の中でも下位の方に置かれて居た社会教育局を二年程前に生涯学習局と改称してその筆頭局に据えてからと言っても良い。これに呼応して各地方自治体も現在を物より

る。生き甲斐を求める教養カルチャー的なものや生き抜く智慧につながる職業訓練的なものから次に述べる必修科目的なもの迄も挙げる事ができるであろう。即ち現代的課題として万人に共通の汚染破壊に直面して居る環境の問題、各種の差別撤廃を第一とする社会的な問題、政治経済軍事に拘りを持つ国際的な問題等が

めてと言いつつも当分の間はこれ迄通り各種の物を大量に作りそれを売って日本経済を支えると云う図式を採り続ける事になるのであろう。昨今の就職状況極めて良好と云うのもそのお蔭と言わざるを得まい。しかし我々はもっともっと精神的にゆとりが持てても良いのではあるまいか。中南米の国々で一方では日本など

も心の豊かさを志向する時代と捉えだれもがいつでもどこでも学べる生涯学習社会の実現を図るとして種々の努力をして居る。国も各種の教育機関に協力を呼び掛けて居り本学もこれに応えて生涯学習教育センターの設置運営を軌道に乗せて居る。

一言で生涯学習と言って居るが中身は多種多様であ

それである。此の最後の必修科目的と呼んだものは本当に必修科目としても良いのではなかろうか。全国民共通の科目として義務化して行く位の姿勢で臨むのが望ましかろう。反対もあろう。しかし全人類的課題とあれば何人もその重要性を認めない訳には行かないであろう。

物よりも心の豊かさを求

にも多大の経済援助を請うて置きながら他方では大きな家に住み休日もたっぷり取って豊かに暮して居る所があると聞く。どこかがおかしいのではあるまいか。

こう云った事態を是正して行くにはこれ迄の様な生き方では駄目である。物から心へと叫んでも企業戦士が旧態依然の儘ではどうする事も出来まい。こうした

う。

社会は自分達で目標を掲げ実践し修正を加えながら前進させて行くべきものである。与えられるのを待ち流れに任せて漂って居るだけではより良い社会の建設は不可能である。此の目的を達成する為には社会は共通の価値感を持たなければなるまい。「年長者を敬う」これをそうしたものの第一に掲げたい。何時の世でも通用する普遍的なものであってこれを社会通念社会規範にまで高めて行きたいのである。此の時、当の年長者が尊敬に価しない様では話にならない。年長者たるもの斯かる存在となって行く為にも学習に励まなければならないのである。児童生徒が学ぶ学校教育に於いても当然これは必須科目に加えられるべきである。

生涯学習もこうした各年齢層が夫々の立場でこれに参入して学習し合い啓発し合って初めて真の意義も見出される事になるのではなかろうか（一九九〇・五・一六）